

## LIGHT

細かな霧のような雨が降ってくる。曲りくねった細い道。上がった、下ったり、線路に沿って歩いてみたり、時折小川にぶつかって小さな橋をわたる。鎌倉の小道ではいつもこんなふうに、ふいに何か起きる。その小道にたくさんの人が入り込んで迷う。一日に何人も、一日に何度も、霧雨の中を途方にくれて立ちすくむ人がいる。東京にいた頃、道を歩いていると安心できた。どこへ入りこんでも、いつでも自由に広い場所へ出られると思っていた。鎌倉を離れて十数年。久しぶりに戻った懐かしい場所は、私を異邦人のように、細い小道で奥へ奥へと迷わせる。私は、体内アンテナを失った。『話し声が、聞こえる・・・』十数年ぶりの親友に話したら笑われるだろう。細かな雨は静かに降り続けている。立ち込めた霧のような雨の中で、小道はますます妖しく曲りくねっていく。町の裏通りへ、山の中へと曲りくねって勝手に入り込んでいく。

「そんな馬鹿な。君は東京から戻ってから変だぞ。小道が生きているみたいに勝手に曲りくねって行くなんてことがあるものか」「そればかりじゃない。道端に咲く紫陽花の茂みから話し声が聞こえるんだ。裏路地でも、線路際でも、山の奥でも」「もしかすると君はまだあの話を信じているんじゃないのか？ほんの冗談だったのにな。やっぱりな。恐いのかい？そうさ、紫陽花の花の下には死人が埋まっているのさ。その

死人の血を吸って紫陽花は色鮮やかに花を咲かせる。君のいう通りなら、雨に濡れた紫陽花の陰で話しこんでいるのは、魔物と死人ってことになるな」「ふ～ん、魔物と死人のひそひそ話しか・・・それで皆迷い込んでくるってわけだ」「また、真に受けた。君がすぐ道に迷うのは昔からの癖だよ。紫陽花のせいなんかじゃない」天から降ってくるのか、地から舞い上がってくるのか、私は霧雨にまかれて、紫陽花の小道に立っていた。ただ立っている、辺りはほの暗くなっていた。紫陽花の道は夜の海に沈んでいくように静かに暗くなっていく。真っ暗な中に、どこからともなく青くせつなく小さな光が灯った。一つ、二つ、青白い小さな光が幾つも幾つもふえていく。ゆらゆらと天を頼って漂うのか、水の底に帰ろうとするのか。青くせつなく漂っている。その光に照らされて、紫陽花の花がぼんやりと姿を表した。紫陽花の茂みにはたくさんの蛍がその体を隠している。魔物の正体は蛍だったのか。手を伸ばしてその光を捕まえようとする、その両手は宙を泳いで、紫陽花の茂みの陰からいっせいに飛び出した蛍の青白い光であたり一面いっぱいになった。次から次へと小さな光はゆらゆらと天に向かって上っていく。そして見覚えのある懐かしい人たちの影も……

私は青白い光の中に沈んでいった。



## COLUMN

鎌倉の猫事情 第二十九話

ゲーニー君の成長はめざましく、いえ、体の方の成長のお話です。最初に生まれた1匹娘のすみれと、立て続けに出産した次の6匹の男の子達の子育てを、ただひとり立派に成し遂げたスイーピーにくらべれば、ゲーニー君、父親としての自覚もいっただいあるのかないのか、赤ちゃん猫達に日夜おっぱいを与えつづける妻のかたわらで、カーテンの紐にじゃれてみたり、剥がれかけた壁紙を引っ掻いてみたり、心の方の成長はどうも、鼻屑目に見たとしてもいやは充分とは言いきれないものがあります。

一方、スイーピーの後姿にはすでに威厳さえ漂っているように見えます。これもまた人間界にもありそうな光景ではありませんか。ただし、体の方は毎日三食好き嫌なく、ガツガツ食べるせいで実に立派なものです。いかにも強靭そうな肩の筋肉の盛り上がり、くっつくびれたウェスト周り、鋼のように引き締まった身体全体を覆う薄茶色とところどころ濃茶を帯びた毛並みが、歩くたびに波打っています。その身体をしっかりと支える先が黒くなった四肢。そして、

大きくて真っ黒な顔。顔の真中にそれほど大きくもない三角の双つの目を青くきらりと光らせています。ゲーニー君は小さい頃シャム猫らしく顔の真ん中だけが黒かったのですが、身体の成長と共にその黒い部分がだんだんと広がっていき、黒いとんがった耳にまで達して、ついに顔だけは黒猫、みたいなシャム猫になったのです。そうなるといくら可愛いとはいっても、シャム猫なんだか、狸なんだかよくわからなくなってきています。特に家の中では見慣れた顔なんです、外で会うと、なんだか変な動物がいるなあ、と思うと、あ、ゲーニーだ・・・なんて気がつくくらいです。というわけでなんとも言えない猫になっていったわけですが、その風貌といい、しわがれた低い鳴き声といい、三角に光らせた目といい、この裏路地あたりに一人前のオス猫の存在を知らしめるには、役立ったといえるでしょう。

事実、その存在を見つめていた大きな灰色の影がありました。猫事情の読者の皆さんの中にはご記憶の方がいらっしゃるでしょうか。第十八話に一度その影は登場し、ゲーニー君の行くての暗雲を予感していたのでした。

### WANTED !

里親大募集！ 6月18日日本中がワールドカップ日本代表の活躍に脚躍らせた日、スイーピーちゃんが又また可愛い赤ちゃん6匹！を出産しました。可愛い子猫をもらって下さる方募集しています。ご希望の方は、ミルクホール子猫係りまでご連絡下さい。 Phone 0467-22-1179

to be continued

